2019 年度 第 2 回モトクロス委員会 議事録　ダイジェスト

開 催 日: 2019 年 11 月 14 日(木) 10 時 30 分～17 時 10 分
開催場所 ： MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

1. 2019 年度開催状況・ランキング・全日本選手権等報告

(1) 2019 全日本モトクロス選手権シリーズの開催状況
① 観客数 ・・・ 44,926 名(全 8 戦／延べ合計数)
5,615 名(1 大会あたり平均数)　※前年比 100%
② 参加数 ・・・ 1,414 台(全 8 戦／延べ合計数)
177 台(1 大会あたり平均数)　※前年比 93%
＊クラス別平均台数
IA1:25 台(前年比 96%)、IA2:41 台(前年比 100%)、IBOP:73 台(前年比 95%)
LMX:31 台(前年比 86%)、CXA:7 台(88%)、CXB:4 台(80%)、併催 JX:28 台(72%)
＊観客動員の発表数の見直しについて要望された。

(2) 2019 モトクロス地方選手権

地区	JX	NB	NA	IB	承認
北海道	69 台(平均 10 台)	174 台(平均 25 台)	128 台(平均 18 台)	120 台(平均 17 台)	301 台(平均 43 台)
東北	91 台(平均 13 台)	133 台(平均 19 台)	88 台(平均 13 台)	88 台(平均 13 台)	194 台(平均 28 台)
関東	190 台(平均 19 台)	215 台(平均 22 台)	157 台(平均 16 台)	70 台(平均 7 台)	433 台(平均 43 台)
中部	133 台(平均 15 台)	192 台(平均 21 台)	88 台(平均 10 台)	134 台(平均 15 台)	116 台(平均 13 台)
近畿	149 台(平均 21 台)	73 台(平均 12 台)	76 台(平均 13 台)	65 台(平均 11 台)	136 台(平均 23 台)
中国	84 台(平均 11 台)	125 台(平均 16 台)	53 台(平均 7 台)	94 台(平均 12 台)	68 台(平均 9 台)
四国	3 台(平均 3 台)	67 台(平均 10 台)	32 台(平均 5 台)	66 台(平均 9 台)	100 台(平均 14 台)
九州	67 台(平均 11 台)	78 台(平均 13 台)	47 台(平均 8 台)	44 台(平均 7 台)	165 台(平均 28 台)

(3) 2019 全日本モトクロス選手権シリーズランキングが承認された。
(4) 2019 地方選手権シリーズ各地区昇格者リストが承認された。
(5) 全日本 MX シリーズ各審査委員長より報告された。
(6) 全日本 MX シリーズ熱田レースアドバイザーより報告された。
- スタート進行や進入エリアについて、メカニックが理解していない印象であったが、最終戦には改善されていた。ライダーだけでなく、エントラント全体に対する継続的な啓蒙が必要。
- コース確認を金曜日に行っているが、直前の修正対応ができない為、事前に確認をすべき。
- 抗議の対応について、多くの人間を要し時間がかかり過ぎていた。進行中のレースへの対応も含め作業分担の改善をすべきである。また、エントラントに対する審査委員会の威厳を上げるべき。

(7) チェックラップのアクセス件数が報告された。
マックスブレインによるラップタイム配信サービス「チェックラップ」のアクセス件数について報告された。
＊シリーズ全 8 戦合計　85,234,365 Hit　(平均 10,654,296 Hit)
178,979 Visit　(平均　22,372visit)

(8) ライセンス登録者数の報告(11 月 11 日時点の前年同日比)
モトクロスライセンスは、1,360 名(92%)となった。
国際 A 級 136 名(101%)、国際 B 級 287 名(99%)、国内 A 級 192 名(94%)、国内 B 級 441 名(92%)、ジュニア 253 名(82%)、PC 51 名(94%)
＊モトクロスライセンスの減少に歯止めがかからず、国内ライセンス以下、特に年少者層のライセンスの落ち込みが目立つ。
少子高齢化の影響も考えられるが、他種目に比べ若年層用の車両も充実しており、年少者育成の施策を早急に立案・施行する必要がある。

2.　2020 主要競技会カレンダー調整

日程	大会	会場
4 月 11-12 日	HSR 九州大会	HSR 九州(熊本県)
4 月 25-26 日	中国大会	グリーンパーク弘楽園(広島県)
5 月 16-17 日	関東大会	オフロードビレッジ(埼玉県)
6 月 6 日-7 日	SUGO 大会	スポーツランド SUGO(宮城県)
6 月 27 日-28 日	東北大会	藤沢スポーツランド(岩手県)
9 月 12 日-13 日	近畿大会	名阪スポーツランド(奈良県)
10 月 10 日-11 日	SUGO 大会	スポーツランド SUGO(宮城県)
10 月 31 日-11 月 1 日	MFJGPMX	HSR 九州(熊本県)

※モトクロス全国大会　8 月 23 日(グリーンパーク弘楽園)

※モトクロスオブネイションズ　9 月 26 日-27 日（エルニー／フランス）

3.　2020 年地方選構造改革

2020 年 1 月 1 日より施行される「モトクロス地方選手権の構造改革」について、最終概要が提出され、審議された。

既に加盟団体事務局に対し内容の確認は済ませており、各地区モトクロス部会において主催者へ周知徹底するよう要望された。

(1)クラスと出場資格は以下の通りである。(　)内はクラスの略称

格式	地方選　開催クラス	出場資格（ライセンス区分）
公認（昇格対象）	インターナショナルオープン（IO）	モトクロス国際 A 級・モトクロス国際 B 級
	ナショナル（NA）	モトクロス国内 A 級
	ノービス　（NB）	モトクロス国内 B 級
	ジュニアクロス（JX）	モトクロスジュニア
※承認（昇格対象外）	オープン 85（OP85）	モトクロス国際 A 級・国際 B 級・国内 A 級・国内 B 級 モトクロスジュニア・エンジョイライセンス
	キッズ 65（K65）	モトクロス PC・モトクロスジュニア
	チャイルドクロス（CX）	モトクロス PC・モトクロスジュニア（ただし、小学校 3 年生以下）

※承認格式は、地方選手権大会の特別規則により出場資格(ライセンス区分)が変更される場合がある。

※ここに記載されていないクラスが承認格式として設定される場合がある。

(2)ライセンスの昇格は以下の通り変更される。

地方選　開催クラス	昇格種別	ライセンス区分	条件
インターナショナルオープン（IO）	申請昇格 （当該年度 12 月 31 日消印有効）	モトクロス国際 A 級 ↑ モトクロス国際 B 級	＊インターナショナルOPENシリーズランキング（IA/IB混合）中、国際B級の最上位かつ「当該年全日本IBOPでポイントを獲得した者。
ナショナル（NA）	自動昇格	モトクロス国際 B 級 ↑ モトクロス国内 A 級	＊旧クラス（NAOP）からの変更点無し ＊地方選シリーズランキングにて定められた人数（規則書で公示）の上位入賞者が自動昇格（国際 B 級）
ノービス（NB）	申請昇格 （当該年度 12 月 31 日消印有効）	モトクロス国内 A 級 ↑ モトクロス国内 B 級	＊「NA へ自動昇格」から「NA へ申請昇格」に変更 ＊地方選シリーズランキングにて定められた人数（規則書で公示）の上位入賞者が昇格対象。 【昇格希望「有」】国内 A 級（ナショナル）へ昇格。 【昇格希望「無」】国内 B 級（ノービス）に残留
ジュニアクロス (JX)	申請昇格 （当該年度 12 月 31 日消印有効）	モトクロス国内 A 級 or モトクロス国内 B 級 ↑ モトクロスジュニア	＊「NB へ申請昇格」から「NB または NA へ申請昇格」に変更。 ＊地方選シリーズランキングにて定められた人数（規則書で公示）の上位入賞者が昇格対象。 【昇格希望「有」】国内 A 級（ナショナル） または国内 B 級（ノービス）へ昇格 【昇格希望「無」】ジュニアに残留（※年齢昇格を除く）

※モトクロスジュニアライセンスは、これまで通り、16 歳となる(2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日の間)年度は、自動的にモトクロス国内 B 級へ昇格する。

(3)ゼッケン

格式	地方選　開催クラス	色	番号
公認 （昇格対象）	インターナショナルオープン（IO）	IA1：白地/黒文字（450F） IA2：黒地/白文字（250F） IB　：紺地/白文字	国際 A 級のゼッケンは、MFJ 本部で管理・登録する。 それ以外のクラスは、 当該地区を管轄する MFJ 加盟団体または主催者にて番号が付与される。
	ナショナル（NA）	黄地/黒文字	
	ノービス　（NB）	白地/黒文字	
	ジュニアクロス（JX）	赤地/白文字	
承認 （昇格対象外）	※オープン 85（OP85）	赤地/白文字または白地/黒文字	当該地区を管轄する MFJ 加盟団体または主催者にて番号が付与される。
	キッズ 65（K65）	緑地/白文字	
	チャイルドクロス（CX）	白地/赤文字	

※承認オープン 85 クラスのゼッケンカラーは、赤地/白文字か白地/黒文字のどちらでも可。

(4)クラスのコンセプトは以下の通りである。

上級クラスを目指すためのクラスと楽しめるクラスに分類し、目的別に広くモトクロスを楽しめることを主眼におく。

格式	地方選　開催クラス	コンセプト
公認 （昇格対象）	インターナショナルオープン（IO）	IA ライダーが地方選手権でも参加できる環境を作り、トップライダーが地元のモトクロスレースを盛り上げたい。IA との混走によって IB ライダーの技量向上にもつなげたい。
	ナショナル（NA）	IB へ昇格を目的とした地方選上級クラス。ジュニアクロスの上位ランキングを獲得したライダーが排気量を変えこのクラスで経験を積み、IA・IB への昇格のステップアップとする。
	ノービス　（NB）	16 歳以上の年齢層が、初めてモトクロスレースに参加する。ジュニアクロスの中下位ランキングのライダーが排気量を変えモトクロスを継続して楽しむ。
	ジュニアクロス（JX）	9 歳から 15 歳の将来を担うライダーが上級クラスへの昇格を目指し、技量向上に励む。
承認 （昇格対象外）	オープン 85（OP85）	老若男女を問わず、2st85cc/4st150cc の車両で地方選に楽しみを求めて参加する。全日本レディースクラス参加ライダーやジュニアクロス初心者が参加し、実戦経験を積む。ジュニアからステップアップした子供を持つ親やカムバックする中高年が楽しめる。
	キッズ 65（K65）	体格が小さい子供がジュニアクロスにステップアップする手前でスピードに馴れる。
	チャイルドクロス（CX）	年少者が親子でモトクロスを始める。走ることの楽しさを体感する。

(5)適用される車両規則

クラスのコンセプトに合わせ、公認制度の適用されるクラスとされないクラスに分別されています。

格式	地方選　開催クラス	適用される技術仕様
公認 （昇格対象）	インターナショナルオープン（IO）	公認車両適用外（モトクロス基本仕様のみ）
	ナショナル（NA）	MFJ 公認車両・モトクロス基本仕様・国内モトクロス技術仕様
	ノービス　（NB）	公認車両適用外（モトクロス基本仕様のみ）
	ジュニアクロス（JX）	MFJ 公認車両・モトクロス基本仕様・国内モトクロス技術仕様
承認 （昇格対象外）	オープン 85（OP85）	公認車両適用外（モトクロス基本仕様のみ）
	キッズ 65（K65）	公認車両適用外（モトクロス基本仕様のみ）
	チャイルドクロス（CX）	50cc の車両規則（改訂版）

※2st125cc クラスの適用車両規則　・・・　モトクロス基本仕様のみ

＊2020 年度チャイルドクロスの参加資格は、小学校 3 年生以下、PC またはジュニアライセンス所持者のままとする。
地区による「承認 OPEN50（仮称）」等、チャイルドクロスと別クラスを設定し、エンジョイライセンスや小学校 4 年生以上の出場を認めることについては、地区の判断とする。資格・年齢については 2020 年の状況を見た上で再検討する。

4.　前回議事録と作業部会の確認と継続事項の審議

「2019 年度第 1 回モトクロス委員会」、第 1 回作業部会の議事録を基に審議が行われた。

(1) レディースクラスの対応について

全日本で実施されているレディースクラスのエントラントより、主にコース状態を改善してほしい声が多いとの報告があり、対応について審議されていた。現状の午後最初のレース時刻設定だと、昼休みにまとめて行われる散水作業によって、コースが泥だらけとなっている。「改善策」について作業部会で協議された。

また、レディース選手会の協力により、九州大会終了後エントラントの声を集めて頂いた。

- HSR 九州大会では試験的に午前に決勝を実施するようタイムスケジュール変更を行ってみた。
- 総合的な観点で、タイムスケジュールの変更ではなく、散水が昼休みに集中的に多く撒かれている点が問題である。
- 散水の撒き方の改善を要望する意見が多かった。

✧　全日本開催施設に対し、モトクロス委員会として散水の対応について改善を主催者・施設へ要望する。
特に改善の要望が多かった施設には地区代表 MX 委員から施設へ依頼する。

(2) 2st125cc クラスの対応

今年、第 4 戦 SUGO 大会と第 6 戦近畿大会にて、エキジビジョン併催クラスとして 2st125cc クラスが開催された。

- 参加台数　SUGO(56 台)、近畿(81 台)　<u>＊予想以上の台数を集めた。</u>
- 年齢層　10 代～50 代までの年齢層で均等がとれていた。
- 概要　公式練習タイムアタックで 2or3 クラスに分けた。　＊タイムスケジュールの圧迫(名阪の 3 組が限界)
  レース時間は 10 分+1 周とし予選落ちなし。　＊高齢者にはレース時間が長かったとの意見もあった。
  エンジョイ以上のライセンスとしハードルを下げた。
  公認車両制度は適用外とした。(古い年式が多い)　＊安全確認のみ車検でチェック(スプロケカバーの未装着)
- メリット　軽量でとりまわしが楽。体格の劣る年少者・女性、体力の落ちた高齢者など幅広く受け入れられた。
  観客の多い全日本で併催したことで元国際 A 級の参加も多く、125 クラスの参加ライダーを目的に来場した観客もおり、近畿大会では過去最高の入場者数を記録。モトクロスを離れていた中高年ライダーの掘り起こし効果が期待できる。
- デメリット　クラスが増えるとタイムスケジュールに収まらない危険性。旧年式の車両が多い為、環境問題やパーツの供給ができない為、安全性が担保されない。エンジョイから国際 A 級まで出場が認められていることからライダーの技量差が激しい。

✧　2019 年同様、SUGO 大会と近畿大会で年 2 回、エキジビジョンで行う。(地方選での展開は歓迎する)
✧　エンジョイライセンスとジュニア以上の競技ライセンス所持者(全種目)とし、最低年齢は満 15 歳以上とする。
✧　タイムスケジュールを考慮し、90 名を最大定員として募集をかける。締切日時が正確になるという観点から、WEB エントリー方法のみを採用する。(現金書留は受け付けない)
✧　公式練習のタイムアタックで決勝のグループ分けを行う。
✧　決勝レース時間は、上位グループ A と B は 10 分+1 周とし、C グループは 8 分+1 周とする。
✧　公認車両制度は適用外とし、「付則 17 モトクロス基本仕様」だけを適用する。

(3) 技術規則関連

- 付則 17 MX 基本仕様　3-13 ホイールの以下改訂が承認された。

削除 → ~~3-13-3 国際 A 級ライセンスで出場する選手の使用する車両以外はすべて、公認車両のホイール本体構造(例:スポーク、キャスト、モウルド、リベット等)の変更は禁止する。~~

✧　ホイールの交換・変更は自由と解釈するため、上記を削除。
「ホイール(リム、カラー、スポーク、ハブ含む)の交換・変更は認められる」

- 付則 17MX 基本仕様　4 燃料、燃料／オイルの混合液／冷却水

現状規則に違反した燃料の使用に対し、取り締まり強化を目的とした対策について検討された。

- ✧ ランダムに抜き取り検査を実施する。
- ✧ 決勝出走後に限定すると残量の兼ね合いもある為、公式練習・予選での抜き取りも考慮する。
- ✧ 国内競技規則、全戦の大会公式通知に抜き取り検査を行う旨、公示する。

（4）全日本運営体制について

全日本モトクロス選手権シリーズの運営体制について審議された。

- ✧ 全日本モトクロス選手権シリーズにおける運営効率化の施策については別途作業部会で検討する。
- ✧ 全日本シリーズの開催会場のみ適用のコース規格がまとめられた。
- ✧ モトクロスレースアドバイザー制度を継続する。

（5）競技規則の改訂

国際 A 級ライダーが全日本選手権シリーズに少しでも長く関与できる環境を提供すべく、「シーズン途中で IA1 と IA2 のクラスを移動することを可能としたい」との要望について審議され、承認された。

削除 →~~「5-4　IA1 と IA2 のダブルエントリーはできない。また、シーズン途中に IA1 と IA2 のクラスを移動して出場することはできない」~~

削除 →~~「5-3 前年 IA1 シリーズランキング 1 位～10 位までのライダーは IA2 に出場できない」~~

（6）赤旗の定義、再スタートの方法の統一解釈

前回委員会にて、安全優先の観点から、赤旗提示を躊躇なく指示する方針となった。

これに伴い赤旗の提示のタイミングや再スタートの方法などをまとめた草案を策定し、承認された。

2020 年度国内競技規則書へ表記する。

5.　ネイションズへの取り組み

モトクロスオブネイションズ日本代表チーム参戦事業について、新規組織の提案がなされ、「TEAM JAPAN MX PROJECT」を新規で立ち上げ、MFJ・モトクロス委員会の共同運用で進めていくことが承認された。

- ✧ 選考委員会を組織し、選手選考と監督選考を実施する。
- ✧ 運用については、MFJ と MXPOJECT 間で覚書等により詳細をつめる。
- ✧ MFJ は、ネイションズ事業についてサポーターT シャツの販売・全日本会場における PR 活動等を並行して行う。

6.　2020 年国内競技規則改訂案

（1）クラッチの操作方法の規則改訂について

エンジンの改造をせずに、ボルトだけで変更ができる変更については可能とすることが承認された。

- ✧ クラッチ作動方式は油圧式→ケーブル式またはケーブル式→油圧式への変更が許可される。

ただし、クランクケースの改造なしで、ボルトオンの部品変更で可能なものに限る。

（2）オフィシャル不足に関する検討会について

2019 年 10 月 10 日、MFJ 本部で開催された「競技役員に関する作業部会」で提案された以下の事項が説明され、承認された。

- ● 危険度の高い役務、判定に関わる役務以外は、役員ライセンスを所持しなくても補助員として活動することができる。
- ✧ なお、資格が必要な役務については、MFJ 事務局と MX 委員長にて決める。
- ● 主要役務以外は、種目を問わずに従事することができる。
- ● JAF の規定を参考に、補助員への資格付与や推薦制度を採り入れる。（補助経験と加盟団体事務局の推薦ありき）
- ● 競技ライセンス（エンジョイ除く）またはピットクルーライセンス所持者で 18 歳以上の者は、競技役員 3 級の資格で従事可能なオフィシャル業務を可能とする。

その他、競技役員ライセンス所持者への全日本入場優待制度などの施策が提案され、継続的に検討することが報告された。

（3）スポーツデンティストの活動予定について（報告）

2020 年全日本シリーズにおいて、選手のマウスガードの装着などを主旨としたスポーツデンティストが各会場で活動する予定。専用のビブスを装着して一般観客と識別できるよう対応することが報告された。

（4）モトクロス運営統一セミナーの実施について

2020 年はセミナーの趣向を変え、講師が東西会場へ出向き参加希望の競技役員へ講習するこれまでの方式ではなく、地区 MX 委員長と加盟団体事務局代表者ならびに全日本開催施設を一か所に集め、意思統一会議「オーガナイザーミーティング」の趣向で開催することが承認された。

【概要案】

- ✧ 日程（案） 2020 年 2 月 1 日（土）
- ✧ 会場（案） MFJ 本部会議室（東京都中央区）
- ✧ 出席対象 地区モトクロス委員長、加盟団体事務局代表者、全日本開催施設代表者、テクニカルアドバイザー、レースアドバイザー
- ✧ 全日本・地方選開幕前に、安全対策・音量測定などの統一解釈を図ることを目的とする。

7. その他

◎ 動画の取り扱いのガイドラインを明確化してほしい。
・・・大会審査委員会における証拠材料の選定による。（エントラント・観客による動画の採用は、原則考慮しない）

◎ 音量測定の対応について、一旦パドックに戻り細工をする、冷却してから測定を受ける等の違反行為を取締まる。
・・・オーガナイザーミーティングにおいて統一解釈による対応を検討する。

◎ 全日本シリーズのレース内容など、観客が飽きない為の施策（例：IA 決勝 15 分+1 周を 3 ヒート）を検討したい。
・・・別途作業部会で検討する。

◎ 全日本パドックの使用について検討する。（例：関係者の移動用乗用車等を別駐車場に移動し、華やかにする）
・・・別途作業部会で検討する。

◎ 車イス等の身障者観戦エリアに健常者が入って観戦している状況を規制すべき。
・・・各大会ごとに注意喚起を行っていく。

◎ 外部メディアよりモトクロス委員会宛てに寄せられた意見が紹介され、意見を参考に施策を検討することが確認された。

以上